

## 明治に開業、日本最古級の映画館

# 高田世界館(上越)

# 趣そのまま装い新た

日本最古級の映画館として知られる上越市本町6の「高田世界館」が、明治時代の開業以来初めて劇場の天井装飾の改修工事を行い、28日にリニューアルオープンする。歴史

的な建物を次世代につなげようと、長年愛されてきた館内の風合いを保ちながら改修した。関係者は「これからも地域に愛される場所になるよう、大切にしたい」と話している。

高田世界館は木造2階建ての洋風建築で、国の登録有形文化財に指定されている。開館115年となる高田に芝居小屋「高田座」として開業し、16(大正5)年「世界館」に改称して以降、常設の映画館として親しまれてきた。2009年からは、NPO法人「街なか映画館再生委員会」が運営している。

改修工事は、建築材料の研究が専門で、これまでも国内の文化財修繕に携わってきた工学院大(東京)の田村雅紀教授(52)らが手がけた。

劇場のシンボルである天井装飾は縦横約2・5メートルの八角形の枠に、高田藩を治めた榊原家の家紋をあしら



高田世界館の改修工事について開かれた説明会。開業以来初めて天井装飾の修復を行った＝上越市本町6

## 天井装飾を初修繕 28日改装開館

ただ経年劣化や地震で、装飾を支える天井の木材に隙間が生じ、しつこい音が欠損。装飾の崩落を防ぐため、田村教授が岩手県文化財を修繕した際に考案した特許技術を用い、アクリル樹脂や麻縄などを使って天井裏の木材を補強した。

19日には、田村教授が高田世界館を訪れ、市民ら約50人に修繕の技法などを解説した。ひび割れの幅や長さなどが変わった時の色から、ひびができた時期を推察し、漏れ出た樹脂を元の装飾の色に合わせて調整したことを紹介。「ガラッと変えるのではなく、少し懐かしい香りが残るようにしたい」と説明した。

解説を聞いた上越市土橋の主婦、萩原登美子さん(58)は「世界館のSNSで工事の写真を見ていたのに、実際に工程の裏側を聞いて興味深かった」と話した。

高田世界館は、映画の上映のほか、館内の見学も1人500円で受け付けている。支配人の上野迪音さん(38)は「見学のみも可能で、県外から訪れる建築ファンもいる。地元をはじめ多くの人に訪れてほしい」とPRする。火曜定休。問い合わせは高田世界館、025(520)7626。



劇場の天井裏で行った修復作業(高田世界館提供)